



マテリアリティ

安定した収益と経営基盤の強化

人権

基本的な考え方

三機工業グループは、2022年4月に定めた「三機工業グループ人権方針」に基づき、サプライチェーンを含めたあらゆる事業活動の場において、すべての人の人権を尊重するとともに、差別や個人の尊厳を傷つける行為を排除し、人権デュー・ディリジェンス（人権への負の影響の特定・評価、防止・軽減、対処を行うこと）を実施しています。これらの取り組みを通じて、従業員エンゲージメントの向上、ステークホルダーからのさらなる信頼獲得に努め、企業価値の持続的な向上を図っていきます。

人権・三機工業グループ人権方針
<https://www.sanki.co.jp/sustainability/social/human-rights/2026>

三機工業グループ 行動規範・行動指針
<https://www.sanki.co.jp/sustainability/governance/conduct-code/2026>

推進体制

代表取締役社長を委員長とする統合リスク管理委員会において、三機工業グループの人権課題を選定し、予防・是正に向けた取り組みを進めています。統合リスク管理委員会では、各担当部門からの報告に基づいたモニタリングを行っています。なお、2026年度よりリスクマネジメント推進体制を刷新し、体制強化を図っています。

➔ P. 76 統合リスク管理体制

人権デュー・ディリジェンス

サプライチェーンの上流から下流にいたるまで、当社グループの事業に関連する人権への負の影響を2023年度に特定しました。影響を軽減するために適切な対策を講じ、人権デュー・ディリジェンスを実施しています。

選定した人権課題*

1. 個人の尊厳の尊重

- 性別、年齢、出身地、国籍、人種、民族、信条、宗教、身体的特徴、障がい・疾病、性的指向、雇用形態等による差別
- ホームページ、CM、パンフレット等広告における人権問題
- アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込みや偏見）が引き起こす差別

2. 労働者の権利の尊重

- ハラスメント
- 長時間労働・過剰な時間外労働
- 従業員の健康・メンタルヘルス対策の不備
- 割増賃金の未払い
- 外国人労働者（技能実習生）の権利侵害
- サプライチェーン上（海外製品の使用等）で考慮すべき人権侵害（強制労働・児童労働）

3. プライバシーの尊重

- 個人情報の漏えい
- インターネット上の名誉棄損

*発生のある可能性がある人権リスクについて、全グループの所属長へアンケートを実施し、その結果等をもとに統合リスク管理委員会で選定。事業や社会情勢の変化に応じて、適宜見直しを行います。

人権に関する通報・相談窓口

三機工業グループの職場で働くすべての方ならびに協力会社をはじめサプライチェーンにおけるすべてのお取引先を対象に人権に関する通報・相談窓口を設けており、ホームページや各研修を通じて周知しています。通報者の情報は保護され、通報を理由とする不利益な扱いを受けないことを徹底しています。

➔ P. 79 内部通報制度

2025年度の取り組み

対象 ▶ グループ従業員・役職員

eラーニングによる企業倫理研修を実施し、当社グループの行動規範・行動指針、人権方針について改めて周知しました。グループ内での人権リスクに対しては、毎年職場実態調査によるモニタリングを実施しており、調査結果については、各部門長へフィードバックし担当部署と連携して対応をしています。

*人権課題や人権リスクに関する研修は、コンプライアンス関連研修の一環として実施しています。

➔ P. 78

対象 ▶ 協力会社

当社グループのサプライチェーン全体における人権リスクの防止・是正に向け、2025年度は746社の協力会社を対象にアンケートを実施（回答率：45.3%）しました。また、協力会社へのアンケートに独占禁止法に関する評価項目を追加しました。



マテリアリティ

安定した収益と経営基盤の強化

品質の向上

基本的な考え方

三機工業グループの技術力・提案力を発揮し、顧客ニーズに最適で高品質な製品・システムの提供を通じて顧客満足高めるとともに、社会へ新しい価値を提供していきます。品質の維持・向上を図るため、QMS（品質マネジメントシステム）*を構築しています。

*建築設備事業、機械システム事業、環境システム事業の各部門において、QMSとEMSを統合して運用しています。2024年度から国内グループ全社に適用範囲を広げました。

品質
<https://www.sanki.co.jp/sustainability/social/quality/2026>

トラブル・クレーム発生防止による施工品質向上

三機工業グループは、当社を起点とする施工中のトラブル・クレーム（以下、TC）ゼロを目標としています。これまでの経験を毎朝の現場朝礼や検討会などで共有するとともにオリジナル動画や漫画コンテンツを通じて警鐘を鳴らしています。トラブルが発生した現場では技術的スキルの高い技術エキスパートが個別に指導するなどして、改善を図っています。

2025年度は、トラブル防止事前検討会やTC確認会議を継続開催し、真因分析を通じて判明した原因を社内で共有、さらにTC防止動画の制作・配信を行った結果、施工中のTC発生件数は前年度より約17%減（7件減）となりました。



トラブルクレーム漫画コンテンツ

施工現場における品質リスクアセスメント

企画・設計から施工まで一貫して品質向上に取り組み、設計段階では全物件でDR（デザインレビュー）を実施して図面精度を高め、是正削減と採算性向上を実現しています。着工時には検討会で施工方法を明確化

施工現場における設計・技術の品質への取り組み

受注前／受注時	着工時	施工時
設計DR 設計本部や品質管理センターを中心に設計図のDR（デザインレビュー）を行い、要求された品質が確保されているか、コスト面および施工運用面を精査。設計図の精度を向上。	着工検討会 技術部、現場担当者、支社・支店関連部署により施工方法（手順）方針を決定し、品質目標を設定。品質管理センターにより品質面、施工面、コスト面、工程、安全性を確認し、仕様変更等が必要な項目抽出と具体的対策の立案・指示。	施工監査 技術部、現場担当者、支社・支店関連部署、品質管理センターが中心となり設計変更を含めた施工内容を確認。 竣工監査 設計図どおりの品質が達成できているかを確認、必要に応じて是正指示の確認を行う。